

テーマ1～2のまとめ

整理①活動対象となる災害リスクと対処方法

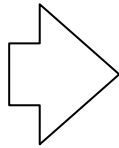
住んでいる地域で考えられる、対応する優先度の高い災害リスクと、その対処方法を書き込みましょう。

《対応する優先度の高い災害リスク》

《リスクに対する対処方法》

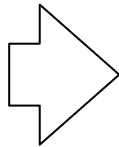
《優先度 No1》

《対処方法》



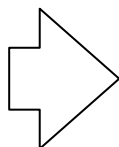
《優先度 No2》

《対処方法》



《優先度 No3》

《対処方法》



(参考例)

整理①活動対象となる災害リスクと対処方法

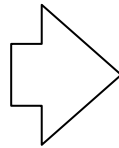
《対応する優先度の高い災害リスク》

《リスクに対する対処方法》

《優先度 No1》

火災

50%



《対処方法》

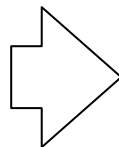
- ・初期消火能力向上（天井に火が届く2～5分以内）
→地域に消火器購入の働きかけ、あっせん
- ・延焼阻止（火元から隣家に火が移る前に阻止）
→移動式ホース格納箱の取扱訓練と設置場所の周知
- ・広域避難場所への避難（延焼が阻止できなかった時）
→大規模火災の時の避難場所と避難ルートを地域住民に徹底周知。とりあえず、広域避難場所へ避難する。

《優先度 No2》

倒壊

家具転倒

40%



《対処方法》

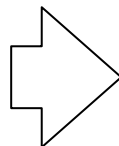
『耐震化・家具の固定を地域全体で促進する』

- ・地域へ事前の備えの必要性の啓発勉強会
- ・市の補助事業の活用
（回覧による市の事業の周知やあっせん）
- ・救出・搬送資器材の整備及び取扱い訓練
（ジャッキ、バールの取扱い）
- ・要救助者を発見したら、近隣住民ですぐ救出
- ・近隣で対応困難な場合は、活動拠点へ応援要請

《優先度 No3》

津波

10%



《対処方法》

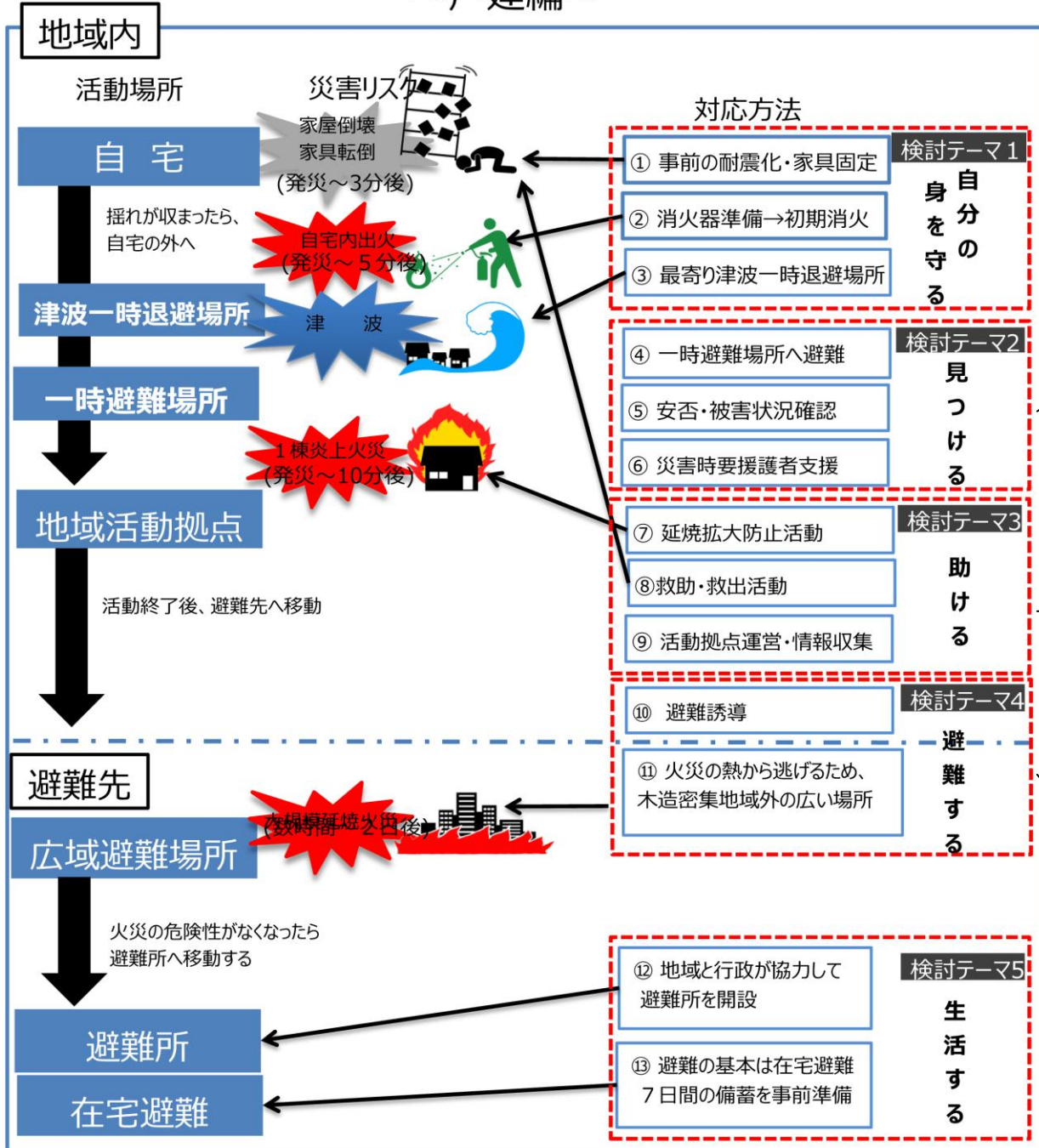
- ・津波一時退避場所の事前確認と周知
- ・津波一時退避場所までのルートと所要時間の確認
- ・津波一時退避場所への入り方の確認
- ・退避先での、津波情報の確認方法

整理②組織としての活動の在り方

STEP2 の検討項目のまとめ（戸建編）

活動マニュアル検討項目リスト

～戸建編～

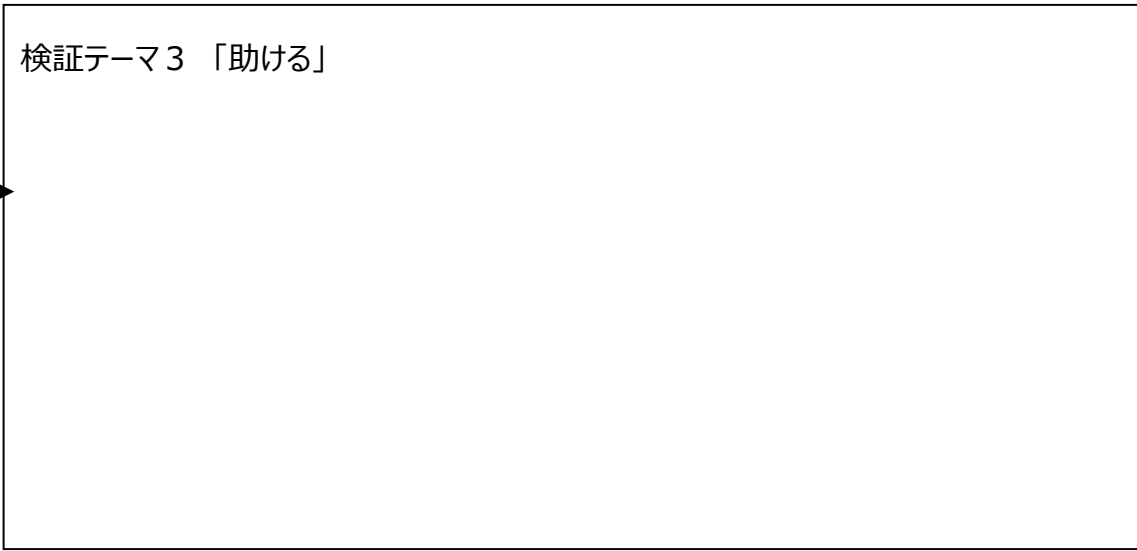


STEP 2で各検討テーマごとに、検討結果をまとめてみましょう。

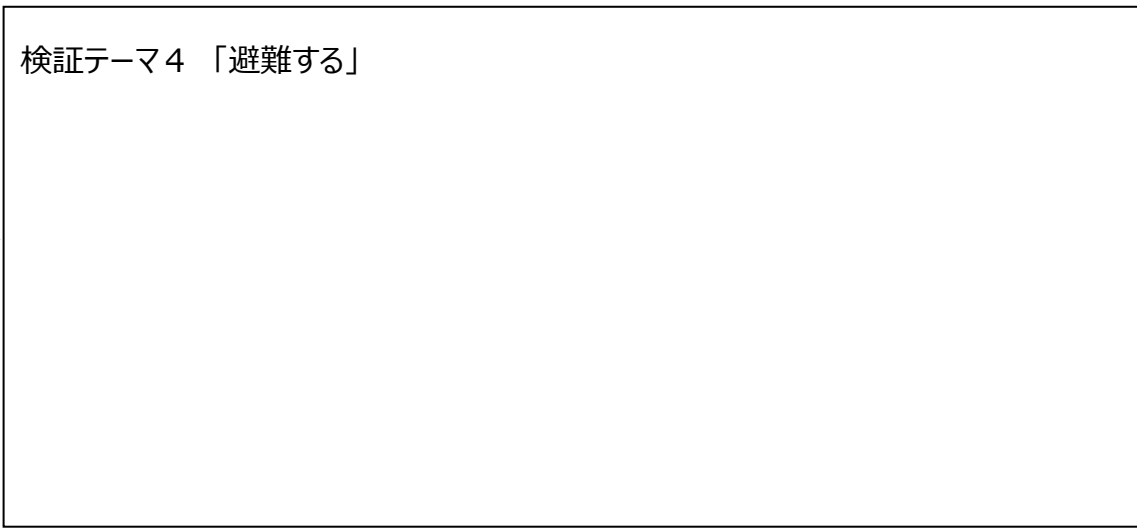
検証テーマ2 「見つめる」



検証テーマ3 「助ける」

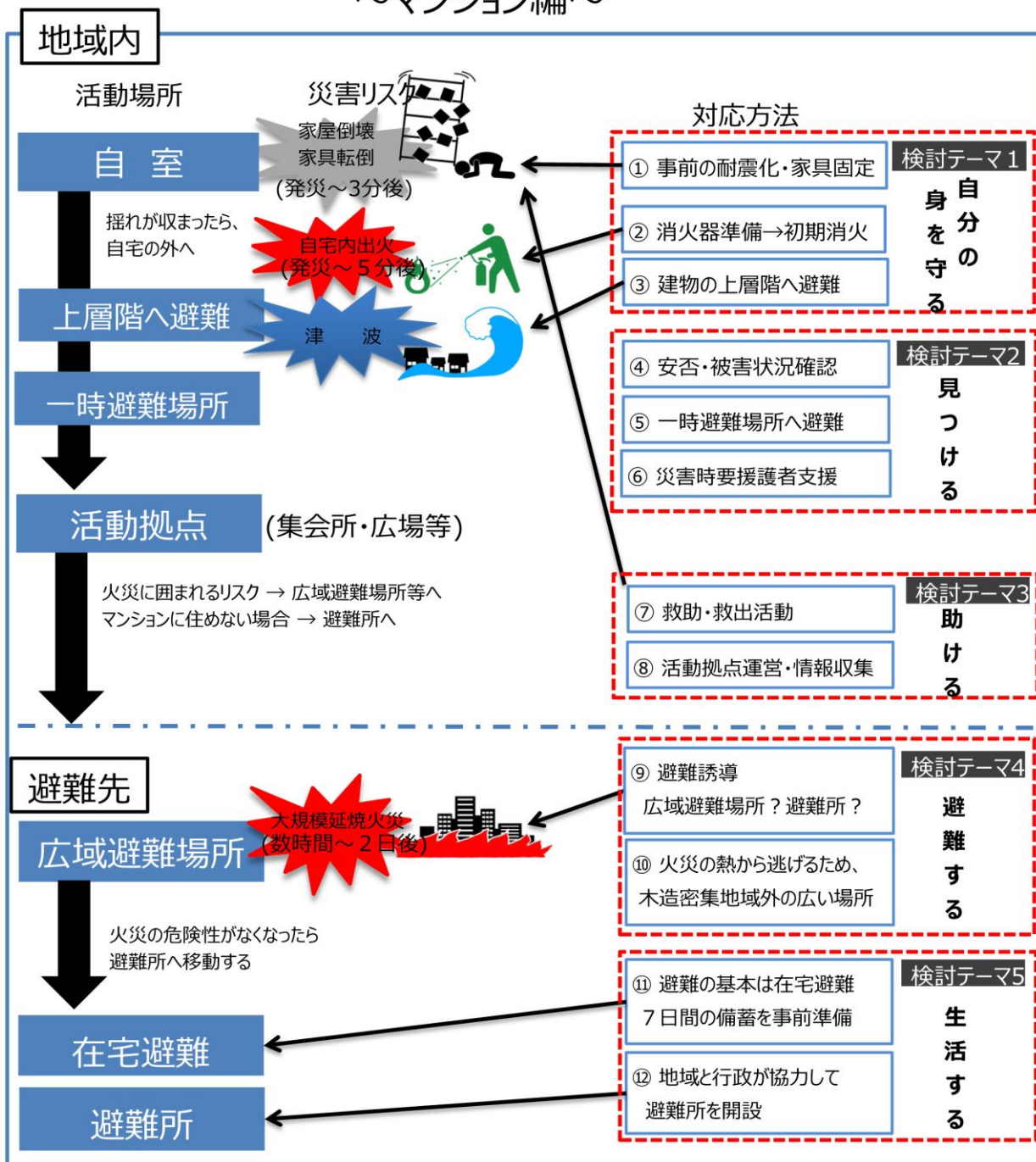


検証テーマ4 「避難する」



活動マニュアル検討項目リスト

～マンション編～




STEP 2で各検討テーマごとに、検討結果をまとめてみましょう。

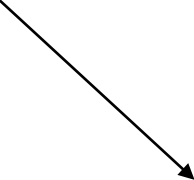
検証テーマ2 「見つめる」



検証テーマ3 「助ける」



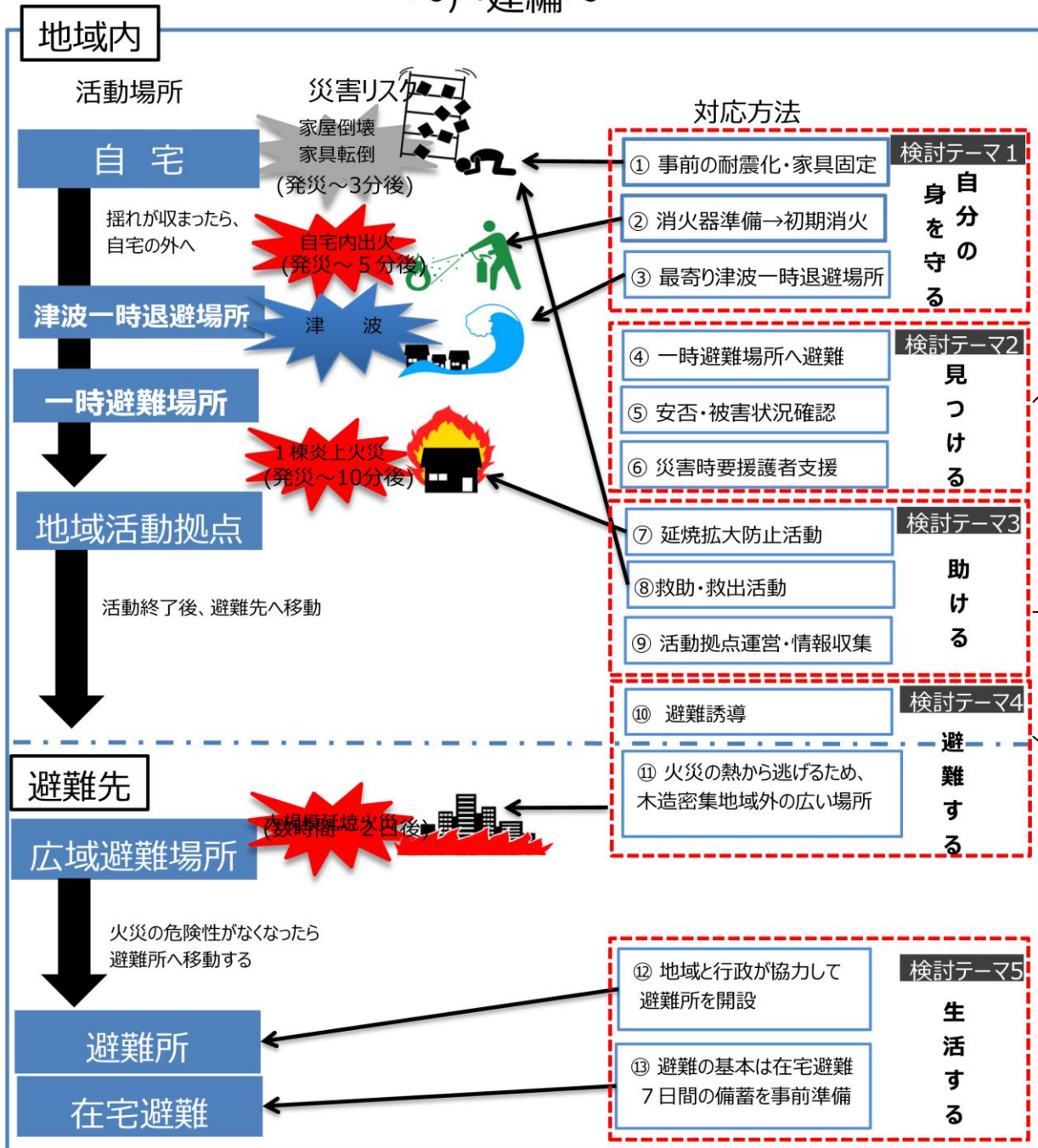
検証テーマ4 「避難する」



(参考例) STEP2 の検討項目のまとめ

活動マニュアル検討項目リスト

～戸建編～



STEP 2で各検討テーマごとに、検討結果をまとめてみましょう。（参考例）

検証テーマ2 「見つめる」

安否確認 + 災害時要援護者

- ・震度 5 弱以上で安否確認
- ・組単位での安否確認の徹底
- ・各住戸は、震度 5 弱の地震を覚知した場合、すみやかに緑のスカーフを門扉など分かりやすい場所へ掲示する
- ・組員同士、両隣りの家を確認して、組長 or 前年の組長に報告
(とりまとめは基本的には組長、組長が不在もしくは負傷等により活動できない場合は前組長が代理)
- ・組で結果をとりまとめたら、自治会へ報告
被害状況（被害が出ている場合も、被害なしで無事な場合も報告）、負傷者、不在状況等
- ・災害時要援護者は、組長が事前に把握しておき、組全体で確認する。避難が必要な場合は、組で協力して避難支援をする。避難するための人で、資機材が足りない場合は、活動拠点へ応援を求める。
(災害時要援護者は、組全体で協力しながら避難支援をしてください)

検証テーマ3 「助ける」

救助活動…第一段階 隣近所で声を掛け合い、救助する

第二段階 組の中で協力をして救助活動を行う

第三段階 近隣で手に負えない場合は、活動拠点へ応援を求め、資器材と人手の調達をする（救助資器材を次年度以降追加購入する）

延焼阻止…移動式ホース格納箱を、どこで出火しても 10 分以内を目標に放水できるように配備する。各組内で 1 人は取扱いにができる人を訓練・養成していく

活動拠点…自治会館 + 防災倉庫を活動拠点とし、震度 5 弱で活動拠点の運営役員は自動参集する。

検証テーマ4 「避難する」

- ・避難所：松浪小学校、医療救護所：松浪中学校、広域避難場所：テラスモール湘南
- ・広域避難場所への避難ルートは 3 パターン設定（状況に応じてセレクトする）
- ・巨大な木造密集地域の中に位置するため、ひとまずは広域避難場所へ避難
- ・松浪地区のクラスター内で火災、煙が確認された場合は、町内全域に直ちにクラスター内で火災が発生していることを周知し、避難先も情報班から周知するように指示する。
- ・高齢者、障害者、妊婦、幼児等の応急活動に参加できない組員は、安否確認が取れ次第、広域避難場所へ避難するように指示する。残りの組員は、応急活動が終了し次第、速やかに避難する。
- ・災害時要援護者は、組で安否確認を行い、組員で協力して避難支援を行う。支援が困難な場合は、活動拠点へ応援要請する。